文章の読解に挑戦しよう

次の文章を読み、問題に答えましょう。

令和元年度の一年生の合言葉は「ふるさと」。南中が自分のふるさとだと感じられるくらい、安心して生活できる場所にしたい。南中生であることを誇らしく思えるようにしたい。①そんな思いが込められている。この合言葉と共にスタートした四月、私が教師を志すきっかけとなった「ふるさと」もまた、中学校生活の中にあったことを思い出した。

中学校生活で印象に残っているのは、学年の先生方から感じられた雰囲気の良さだ。仲が良いというだけでなく、挑戦を後押ししてくれる、困ったときに相談したら助けてくれると確信できるような安心感があった。[A]、先生方は②[　]をそろえて、「私たちは、家族みたいな学年だ。」とおっしゃっていた。学年主任の先生が後ろから見守り、他の先生方が生徒と同じように安心感を得て働いているのだという。③たまたま学年の先生方の年齢構成がそうなっているだけかもしれないが、生徒である私たちも納得できるほど、家族という言葉がぴったりだった。そんな生き生きと働く先生方を見て、私もこんな雰囲気の中で働いてみたいと感じたことが、私の教師への道の第一歩だった。

近頃よく思い出す言葉がある。「私は、ただみんなより長く生きているだけの人間だよ。」先輩の先生が子どもたちに語っていたことだ。先生だから教える、導くというのではなく、先を生きる一人の人間として、その姿や行動、言葉を発信するのだという。私が中学校時代に先生方の姿を見て教師の道を志したように、南中の子どもたちもまた、私の姿から何かを感じ、動き始めるのかもしれない。大きな可能性を秘めた子どもたちが、大人になって南中を「ふるさと」だと懐かしむことができたら、こんなにうれしいことはない。南中で過ごせてよかったと思えるよう、日々自分にできることを見つけ励みたい。

（安城南中学校誌「拓く」より）

一．①そんな思い　とあるが、どんな思いが込められているのか。それが分かる文を二つ探し、始めと終わりの四字を抜き出しましょう。

［　　］～［　　］

二．[A]に入る適切な言葉を、次のア～ウから選び、記号で答えましょう。

ア．しかし　イ．つまり　ウ．また　エ．たとえば

［　　］

三．②[　]をそろえて　について、「各人が同じことを言う」という意味の慣用句になるように、空欄部分にあてはまる漢字一字を答えましょう。

［　　］

四．③たまたま　について、「たまたま」という言葉を使い、主語と述語が整った短文を作りましょう。

［　　］

五．文章の特徴について述べた文として正しいものを、次のア～ウの中から一つ選び記号で答えましょう。

ア．学年の合言葉をきっかけに、これまでに聞いた印象的な言葉をふり返ることで、教師となった自分のあり方を見つめなおしている。

イ．中学校生活の思い出を紹介することで、読者である南中生の興味を引くとともに、夢に向かって努力しようと呼びかけている。

ウ．文章のはじめと終わりに「ふるさと」を用いることで、言葉に込められた意味を印象づけるとともに、筆者の故郷への愛情を強調している。

［　　］

文章の読解に挑戦しよう

次の文章を読み、問題に答えましょう。

答え

令和元年度の一年生の合言葉は「ふるさと」。南中が自分のふるさとだと感じられるくらい、安心して生活できる場所にしたい。南中生であることを誇らしく思えるようにしたい。①そんな思いが込められている。この合言葉と共にスタートした四月、私が教師を志すきっかけとなった「ふるさと」もまた、中学校生活の中にあったことを思い出した。

中学校生活で印象に残っているのは、学年の先生方から感じられた雰囲気の良さだ。仲が良いというだけでなく、挑戦を後押ししてくれる、困ったときに相談したら助けてくれると確信できるような安心感があった。[A]、先生方は②[　]をそろえて、「私たちは、家族みたいな学年だ。」とおっしゃっていた。学年主任の先生が後ろから見守り、他の先生方が生徒と同じように安心感を得て働いているのだという。③たまたま学年の先生方の年齢構成がそうなっているだけかもしれないが、生徒である私たちも納得できるほど、家族という言葉がぴったりだった。そんな生き生きと働く先生方を見て、私もこんな雰囲気の中で働いてみたいと感じたことが、私の教師への道の第一歩だった。

近頃よく思い出す言葉がある。「私は、ただみんなより長く生きているだけの人間だよ。」先輩の先生が子どもたちに語っていたことだ。先生だから教える、導くというのではなく、先を生きる一人の人間として、その姿や行動、言葉を発信するのだという。私が中学校時代に先生方の姿を見て教師の道を志したように、南中の子どもたちもまた、私の姿から何かを感じ、動き始めるのかもしれない。大きな可能性を秘めた子どもたちが、大人になって南中を「ふるさと」だと懐かしむことができたら、こんなにうれしいことはない。南中で過ごせてよかったと思えるよう、日々自分にできることを見つけ励みたい。

（安城南中学校誌「拓く」より）

一．①そんな思い とあるが、どんな思いが込められているのか。それが分かる文を二つ探し、始めと終わりの四字を抜き出しましょう。

この言葉よりも前の内容に注目!!

句点(。)も一字として数えるよ!

南中が自～したい。　南中生で～したい。

二．[A]に入る適切な言葉を、次のア～ウから選び、記号で答えましょう。

ア．しかし　イ．つまり　ウ．また　エ．たとえば

ウ

三．②[　]をそろえて について、「各人が同じことを言う」という意味の慣用句になるように、空欄部分にあてはまる漢字一字を答えましょう。

口

四．③たまたま について、「たまたま」という言葉を使い、主語と述語が整った短文を作りましょう。

①時おり ②偶然に の二つの意味がある

ここでは②の意味

例 僕は野村先生とたまたま道で出会った。

五．文章の特徴について述べた文として正しいものを、次のア～ウの中から一つ選び記号で答えましょう。

ア．学年の合言葉をきっかけに、これまでに聞いた印象的な言葉をふり返ることで、教師となった自分のあり方を見つめなおしている。

イ．中学校生活の思い出を紹介することで、読者である南中生の興味を引くとともに、夢に向かって努力しようと呼びかけている。

ウ．文章のはじめと終わりに「ふるさと」を用いることで、言葉に込められた意味を印象づけるとともに、筆者の故郷への愛情を強調している。

ア